



ポーポキが住んでいる神戸は蒸し暑い季節になりました。ポーポキは大きなはっぱを傘代わりにします。雨のめぐみに感謝しつつ、洪水にならないように祈ります。

Popoki's Hot News!



ポーポキのピース・ブック3！

ポーポキのピース・ブックシリーズの3冊目、
『ポーポキ、元気って、なに色?』がきました！

お近くの本屋さん、出版社エピック (<https://bookway.jp/epic/>)、神戸 YMCA、
ポーポキ・ピース・プロジェクトから入手できます。
ご注文、およびご感想をお待ちしています。



「一言の平和」コーナー

ポーポキのお友だちのアスタから届いた平和。まりえにゃんの訳です：
「私は今最悪の状態にいます。今までこんなに不健康で貧しくて、元気がなくて何をやってもうまくいかないのは初めてです。ですが、そんな中でも友達の笑い声ややさしさ、慰めの言葉、父と母の支えに平和を感じます。私も、いかなる形ででも、彼らに平和をもたらすことができたらな、と感じます。」

あなたは今日、どんな「平和」に出会いましたか？ぜひお聞かせください。

ポーポキのメール [ronniandpopoki \(at\) gmail.com](mailto:ronniandpopoki(at)gmail.com) !

ぼくのFB頁ができました!!! ぜひ観てくださいね！

www.facebook.com/pages/Popoki-Peace-Projectポーポキピースプロジェクト/1384738958444817

いつもご協力、ありがとうございます！

『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』
(エピック 2012) はお陰様で好評です。ぜひ広めていただきたいと思います！

*神戸 YMCA でも販売していますよ！ 本については、
<http://popoki.cruisejapan.com/monogatari.html> をご参照ください。

ポーポキ・ワークショップ@畿央大学

やすにゃん

はじめまして、新にゃんのやすにゃんこと中川靖大です！

ポーポキの活動は実は2回目の参加ということでしたが、今回初めてポーポキ通信を担当させていただきます。



5月17日(土)の午前中、畿央大学健康科学部看護利用学科の約80名の学生とポーポキでワークショップを開催しました！テーマは「人々の健康と世界の平和～ポーポキ、健康って、何色？～」です。

ワークショップということで、講義を聞いたりDVDを見たりするだけではなく、体を動かしたり、絵本の読み聞かせをしたり、気軽に意見交換をしたり、絵を描いたりと盛りだくさんなワークショップとなりました。

80人という大人数のワークショップということもあってか、最初は緊張からなかなか思ったことを自由に言える雰囲気ではなかったかもしれませんが、徐々に少人数のグループディスカッションやお絵描きを通して思ったことを自由に表現できる空気ができてきたと思います！

看護を専攻している学生はやはり「健康と平和」について自分なりの価値観があり、それを将来仕事に活かしていくのだらうと思います。だからこそ今回のようなワークショップを通していろんな人の率直な価値観を知ること、そして自分の価値観を見直すことができるいい機会になっていれればと願っています。



最後になりましたが、このような機会を継続的にくださる畿央大学の堀内先生、頼りない自分を引っ張っていただいたろにゃんことアレキサンダー先生はじめ先輩にゃんのみなさま本当にありがとうございました！！

自分自身、またポーポキとしてこれからも多くのワークショップができたらと思います！



ポーポキ at 灘チャレンジ2014!

あなにゃん・ふえでりこにゃん・まりにゃん

イントロダクション：灘チャレンジ2014（ポーポキ・ピース・プロジェクト）

2014年6月1日、約20人のポーポキ・ピース・プロジェクトのメンバーが都賀川公園にて開催される地域のお祭り、灘・チャレンジ2014に参加するために集まった。このお祭りは19年前の1995年、阪神淡路大震災が神戸とその住民を襲ってから後、地域の早期の復興を願って開始された。今日においては、このお祭りは神戸の人々の地域コミュニティへの参加を促進するため、そして地域のあらゆる地位・職業の人々によって経験されてきた社会的・地域的課題への関心を促すことが視野に入れられ開催されている。

ポーポキ・ピース・プロジェクトチームはこのお祭りのために様々な催しを準備してきた。その催しとは、(1) ポーポキの平和の本に基づいた劇、(2) ポーポキ・ピース・プロジェクトの平和展示（訪れた人に「平和」の絵、あるいはメッセージをかいてもらう。）(3) ポーポキブースにて、子供たちのためにチョークでのお絵かきやシャボン玉遊びを用意、またポーポキの本やTシャツの販売、の3種類である。

今回は神戸大の院生3人が上記の催しに参加しての思い出を綴っている。是非お読みください！

ポーポキのブース

「新しい出会いと様々な方法による様々な世代の人々との交流」

西郷茉莉



今回の灘チャレンジの活動が、私にとっての初めてのポーポキの活動であったのだが、まるで初めてのような感じがしなかった。我々のブースでは主に2つのやるべき仕事があった。ポーポキグッズ（ポストカード、シール、本とTシャツ）の販売と、子どもたちと遊ぶことだ。我々のブースでは2つの遊びを用意していた。（地面への落書きとシャボン玉遊び）

多く子どもたちが我々のブースを訪ねてくれ、我々と楽しいひと時を過ごした。私の日常では子どもと触れ合う機会などほとんどないので、何か特別な感情が私を包んだ。「子どもの笑顔はそれを見ている人の心を解きほぐす、大きな力をもっているのだなあ。」と私は思った。それは、違う国籍をもち、違うバックグラウンドを持ち、世代も違う人々が楽しく、そして協力的に活動するととても素敵な場所であった。この1日で、私はポーポキが持つ、人と人の心を通わす素晴らしい力の存在に気付かされたのだった。



ミニ・ステージ

フエデリコ・トンバリ

訳：西郷茉莉

今年のミニ・ステージの台本はこの私が執筆した。ロニー・アレキサンダー先生によって書かれた3冊の絵本を参照し、ポーポキの、自身の持っている謎の探求活動ー平和とは何か、友情とは何か、元気とは何かーを違う側面から検証する、という試みを行った。



初めは平和に関するパートである。ポーポキは平和の意味を探求する。(平和とは何色か？平和に触れるとはどのような感覚か？友情と関係するものであるのだろうか？)そして2番目のパートは友情である。強調したいポイントは共有することの大切さと(劇中、俳優たちによって子どもの観客をメインに飴が配られた。)、コミュニケーションがなくとも友情は成立するものだということである。友情というものは、言葉がなくとも感じることでできるものであるからだ。感動的なのは、トンガからの女の子が彼女の国

の言葉でポーポキに話しかけ、ポーポキは理解できずとも彼女を抱きしめるという場面だ。そして最後にポーポキは元気とは何かを模索する。ポーポキは世界中を旅し、様々な種の動物に合う。彼らはポーポキに元気の大切さ、そして元気の種類には様々なものがあることを教える。例えば、フラミンゴにとって元気とは片足で立つことで、うさぎにとってはニンジンを食べることなのである。

ステージの俳優陣は様々な国籍の人々で構成される。これは、ポーポキの世界にも様々な種の動物が共存していることの反映である。この事実、ステージ上で使用される様々な言語(英語、トンガ語、日本語…)と異なる日本語のアクセントにてより強調される。

私は台本を本の物語に沿って書いた(ところどころにアレンジを加えた)。しかし、私が感激したのは、素晴らしいメンバーの協力によって私の劇は何か真に迫るようなものになっていったということだ。私たちは動物のお面と劇のタイトルを書いた看板を大学で作成した。



そして驚くことに、劇の公演日当日には全員が、私が数日前に完成させた台本の、自分の台詞の部分を暗記することに必死であったのだ。私自身の中では、結果は大成功であったと思う。照りつける太陽とタイミング(我々の劇は昼食休憩の直後であった)により観客はそれほど多くはなかったが、集まってくれた観客は我々の劇を楽しんでくれた。皆、劇の準備を楽しみ、演じるのを楽しみ、見ているものはそんな我々を楽しそうに見てくれた。





これこそが劇、そして本の物語の目的なのだ。楽しみを与えるしてくれるものであると同時に何か大切な物事、考え方、示唆を与えてくれるものでもある。私は、劇を観てくれた人々はその夜何かを得たと思う。

最後に私が伝えたい灘チャレンジの思い出は、イベントの前に大きなポーポキの絵を家に持ち帰らなければならなかったのだが、それを灘に持って行く時のバスと電車の車中でのことだ。私は、人々、特に子供たちがポーポキを見たときの笑顔が忘れられない。それが、ポーポキの幸せなのである。

ポーポキ友情物語の展示—平和へのメッセージ

アナ・L・コロキハカウフィシ

訳：西郷茉莉



様々な色、言葉、絵から成るタペストリーには、多くのメッセージが織り込まれている。私は希望、友情そして励ましなどの言葉から私が連想し、このポーポキ友情物語に織り込むべき絵を思いついた。「虹だ！」私はそう思った。「そうよ！私が描くべきは虹！」

虹は、宝石のような色々からなる美しいものだ。ポーポキ友情物語の展示は言葉と絵によって我々が伝えたい輝かしい平和の色を表している。あなたが最後に虹を見たのはいつですか？どこで見たのですか？最後に虹を見ていた時、何を思っていましたか？

記憶は、私の故郷、トンガへと私を連れ戻してくれる。私が最後に虹を見たのはトンガだ。私は雨と共に一面に広がる草の香りを思い出した。お日様が沈む時の淡くオレンジ色に染まる空を、そして母の暖かさと弟たちの笑い声も。私は最後に虹を見たとき家にいて、家族と共に幸せな気持ちだった。



もちにゃんと「安全」・「安心」を語る

6月3日にもちにゃんが神戸大学大学院国際協力研究科のアレキサンダーゼミに来てくれました。出席者はポーポキの友だちのにゃんたちとクラスメート 15 名。大槌町の現状や課題についてのプレゼンテーションを受けて、みんなで自分にとっての「安全」と「安心」について話し合いました。衣食住のような物理的なニーズ以外に家族、友だちなどの支えがなければ安心できないという意見が多かった。ちょっと盛り上がったのは、「おりづる」（被災地に贈られる千羽鶴）や宗教は、安全・安心に必要なか、というところでした。話をしているうちにみんなが混乱をしてしまいましたが、どちらかといえば一直線的な安全・安心だったのがより豊かな多元的な安全・安心へと変わりつつあるところで終わりました。もちにゃん、考える材料をたくさん提供してくださり、ありがとうございました！またぜひ来てくださいね。



おりづるを折ってみませんか？

ポーポキの友だちに「7月28日を『子どもの命を守る日』に」という団体があります。2008年7月28日に灘チャレンジの会場となっている都賀川公園の川で起きた水害によって5人が亡くなり、そのうち3名が子どもでした。子どもが事故や危険に遭遇したとき、そのいのちを守るために周囲の大人たちが日ごろできることがあると考える友だちです。毎年、7月28日に犠牲者のためのしのぶ会を開催しています。そのためにみなさんにもおりづるをつくることを呼びかけています。

- 折り鶴は、糸でつないで、1mぐらいの長さにしてください。
- 7月1日以降、灘区民ホールで随時預かってもらえます。
- 遠い方は、実行委員会へ。 090-2704-0546 rurenokai@gmail.com

7月28日にしのぶ会 14:00～（13:30～19:00 まで解放）

7月6日 14:00～16:30 講演会「子どもの命を守るために」 灘区民ホール

5月9日から11日まで、ポーポキと一緒に福島に行って、写真家の森住卓さんの案内の元で原発事故の影響について学ぶことができました。その感想は、数回にわたって紹介させていただいています。

シリーズの2回目のテーマは「放射能」にしたいと思います。基礎的なことも少し書きますが、本号の ページに掲載されている森住卓さんのインタビューをよりよく理解するためです。復習になる方もいるかもしれませんが、お付き合いください。私自身の勉強にもなるし、より多くの方がこの問題を理解し、議論に参加できるようになるためには基礎知識を共有することがとても大事だと思います。

あなたはいつ、どのように放射能について最初に学びましたか？私は初めて学んだのは、たぶん中学校か高校のときだったと思います。ヒロシマ・ナガサキの原爆のときか、科学の歴史のときだったかな。正直にいうと印象に全く残っていません。確かにその知識は、「放射能は怖い」、「自然にある放射能と、人間が作った放射能とがある」、「半減期が長いので、捨てるに捨てられない」、「人間は互いを殺すためだけではなく、医療や電力づくりのためにも核技術を使う」というような内容でした。

来日して最初の5年間は広島に住んでいたので、放射能の「怖さ」については被ばく者の方々から直接学ぶことができました。大学院で核実験について研究していたので人間における影響のほかにも、「捨てられない」ことの怖さについても学ぶことができました。要するに、核軍縮が進んでも核兵器の解体や廃棄が難しいとか、原発は事故を起こさなくても廃棄物の処理が困難だとか、放射能をたくさん浴びたら一瞬にして死んでしまうということだけではない。放射能による汚染は、人間にもすべての生き物にも影響を及ぼし続ける恐れがあるからこそ、問題です。しかし、原爆、数々の核実験や原発事故にもかかわらず、どのような放射能がどのような影響を与えるか、そしてその対処の仕方はまだよくわかっていないようです。

まず、問題になるのは線量です。ご承知のとおり、放射能をどれくらい浴びたかを測るには「シーベルト」という単位を使います。1シーベルト(1Sv)は生死にかかわるので、普段はその1000分の1のミリシーベルト(mSv)あるいはさらにその1000分の1のマイクロシーベルト(μ Sv)を使います。一時間にどれくらいの放射線を浴びたかというときは μ Sv/hrというふうに書きます。具体的にどれくらいの線量を浴び、どのような問題になりうるかは、下記の図を参照にしてください。

私は初めて立ち入り禁止区に入ったとき、とても緊張していました。入る前に防護服を着て、入ってからはフット、手袋、靴袋をしました。この写真は道の駅で撮ったが、普段着の人が私になにも注目をしないのが不思議でした。いったいなにが普通でしょうね？

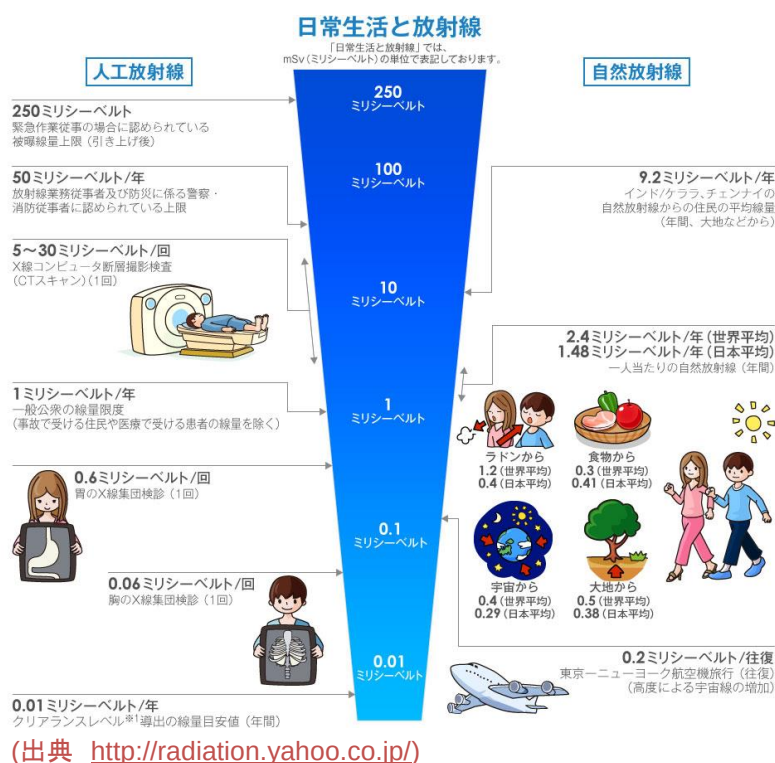
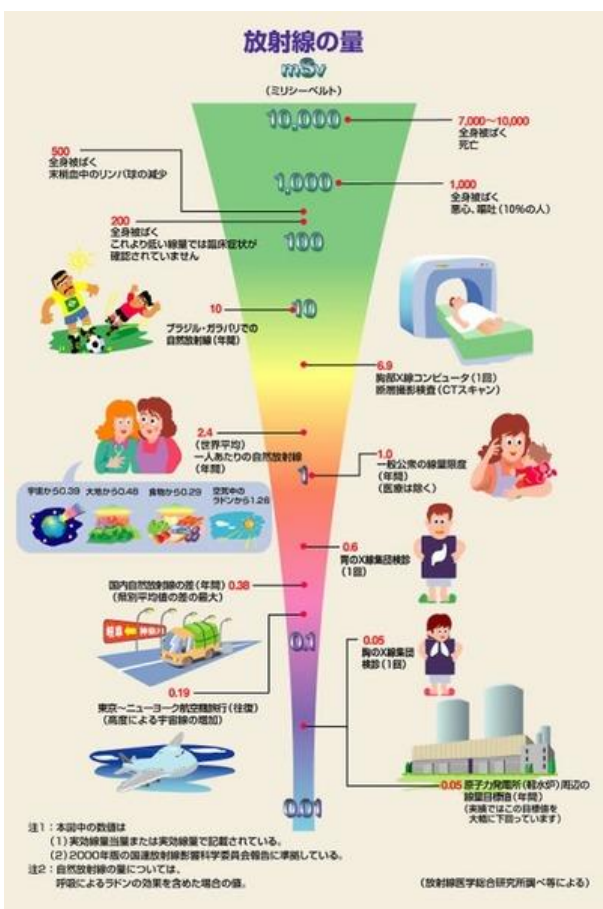


帰還困難地区に行く予定だったので、放射能を測る機械を借りていきました。いろいろな機械がありますが、ごくシンプルなものを選びました。下の写真のとおり、測ってみると $\mu\text{Sv/hr}$ が表示されます。この写真は、立ち入り禁止区に入ったところで車の中で撮ったものです。



右下の「日常生活と放射線」という図の単位は mSv なので、 μSv の千倍になります。しかし、線量が低いといっても長くいると大変なことになるので、油断はできません。なお、世界的に「安全」とされている年間の放射線量は 1mSv/年 。日本は原発事故後、そのレベルを 20mSv/年 に変更しました。

(出典: <http://blog-imgs-15-origin.fc2.com/l/o/v/loveandharmony/scale-1.jpg>)



私が浪江町の津島地区のいろいろなところを訪ねたときに線量を測ってみました。





汚染がひどいところでも、線量の波があって、多いところと少ないところと線量計を通じて自分の目で確かめることができました。でも、線量計がなければ何もわかりません。最初は珍しさや好奇心もありましたが、だんだんに恐ろしくなりました。



私が持っていた線量計は9.99 μ Svで点滅し出しました。どうしたのかなと思っていたら、それ以上は測れないということでした。その時、一緒に行った森住さんが持

っていた線量計は14 μ Sv だったかと思います。案内してくださった方の家に行って、イノシシや猿によって荒らされた家の中を見ていたときに気分が悪くなってきたので、外へ出て、きれいに咲いている花を見ていたときです。大事な家が……。でも、片付けることもごみを捨てることもできません。この時、「危険！ にげたい！」という本能的な気持ちが体の中からわいてくるような感じでした。必至で自分を説得しようとして、「これを感じるために来た。我慢しろ」、と。怖かった。

放射能は風に乗って動いたりするので、福島県はまんべんなく汚染されているわけではありません。また、汚染は行政地区の境を気にするわけではないので、福島県以外にも汚染されている地域があります。証拠はありませんが、今回の印象は、管理者側は、線量よりは行政地区を意識して線を引いているような気がしてしかたがありません。勉強しましょう！

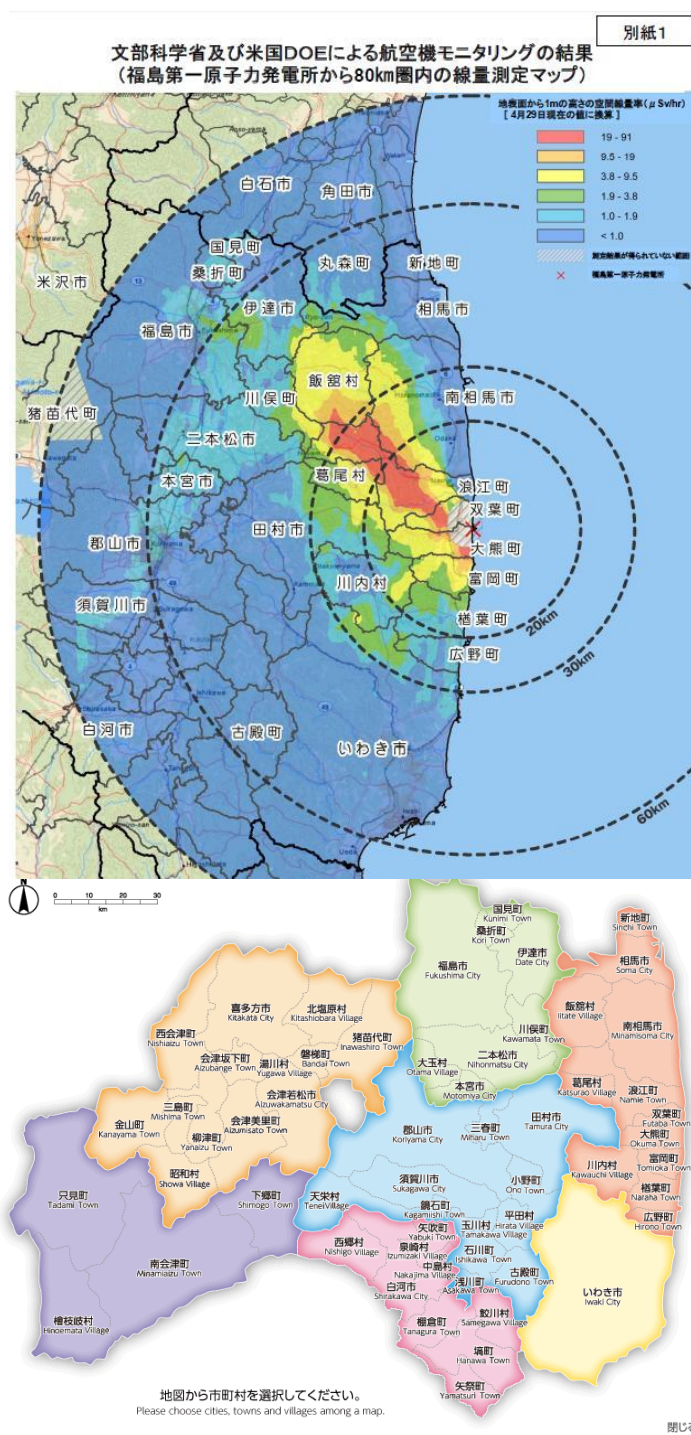
浪江町から出ようとしてとき、いろいろなことに気が付きました。着ていた防護服はゴミ箱に捨てられません。手に持っていたカメラや線量計は、水で洗えません。拭いても、そのために使った紙は捨てられません。服を脱いだりするときに手に着いた放射能は……。靴の底についた泥は……。目に見えない、五感で捉えない恐ろしさが少しだけわかりました。私は自分のことだけで手一杯でしたが、子どもでもいたら……。ポーポキがいたら……。自分の住処や仲間に対する人間の傲慢や愚かさに怒りくるう私でした。

どれぐらいの線量を浴びているかを測るにはいろいろな方法があります。たとえば、原子力規制委員会の HP に行くと、日本各地の線量を調べることができます。

(<http://radioactivity.nsr.go.jp/map/ja/download.html>)。しかし、外で浴びる放射線よりは体内に入る放射能が問題です。だから放射能が多い場所では、マスクや防護服を使ったり、食べ物や水に気遣ったりします。汚染はどのように広がったか？森住さんのインタビューにも出てくるので、ここで原発事故後の地図を載せます。

(上)https://encrypted-tbn3.gstatic.com/images?q=tbn:ANd9GcSMtPN7J5B91PmoRrrrsJ0KWzaWwMywL-qGmh_fYI8icT1AP_cx_5Zyyw

(下)<http://www.imart.co.jp/8.23-monbu-usdoe-monitoring-80km-kennai.jpg>





* ポーポキのインタビュー * 森住卓さん

ろにゃん

5月9日～11日、写真家の森住卓さんと一緒に福島へ行ってきました。最後の日の夕方に飯館村から福島空港へ向かう間、車内でインタビューをしました。

R: 森住さんは、2011.3.11の事故発生直後からずっと取材していますね。

M: そうだね。3月12日は郡山でまで行った。13日は福島第一原発がある二葉町へ行った。まだ行くことができた時期だからね。1号機は12日の午後に爆発した。その時は6人、車3台できていた。みんながJVJA(日本ビジュアルジャーナリスト協会)のメンバーで、核問題をフォローしていたので線量計や防護服などはあった。とにかく車に乗って、ガソリンがなくなったら帰る、と思ってでかけた。280号線の三春という町に民宿があって、そこで泊まった。そして、汚染を測ってみたら本当にびっくりした。

R: ずっと福島第一の周辺にいましたか？

M: 二葉は汚染がひどいし、津波被害も見あったので仙台へ向かいました。14日の晩は宮城県庁で寝た。そこで14日の午後、3号機、4号機が爆発らしいという話を聞いた。私たちは福島に戻る人、戻らない人と二つに分かれた。僕は福島県のいわき方面に行こうとしたが、45号線は通れない。爆発するとこわいので、安全をとって、三春へ戻った。

15日は津波被害をみるために相馬の方へ行った。余震が多く、もしかしてまた津波が来ると心配した。その頃、20キロ内は立ち入り禁止になっていた。午後に相馬から原発へ行く途中、伊達でごはんを食べた。試に線量を測ったら40 μ Svだった！

R: 40も！？！で、どうしましたか？

M: 住民に逃げるようにつげて、でかけた。そこから一山を超えると飯館村がある。天気が悪く、雨が降り始めた。飯館村で測ったら100 μ Sv！三春へもどることにした。

16日は、二本松の被災者のスクリーニングの様子を見に行った。長い列だったし、僕にはとくにすることがなかったので、一人で宮城へでかけた。その日は車の中で寝て、次の朝、気仙沼に着いた。そこで線量を測ったら10 μ Sv。車の外はそれ以下だったので、車の中が汚染されたことがわかった。

実は、それがレンタカーだったので、東京に帰ったときに線量を測った。2 μ Svだった。自分で汚染した車を返す時に自分で掃除しようと思った。でも、後でわかったけど、汚染は福島から持ってきたというより、その2 μ Svは、当時の東京の平均だったようだ。

いったん戻ったが、また3月27日に飯館村へ行った。天気が良かったし、風はなかったので、原発の方へ行ってみた。ゲートで測ってみたら、400！本当に危険。IAEAは日本政府に30kmの外でも避難すべきだと言ったのに、政府はそれを無視した。

R: 怖くなかったか？

M: べつに。15日に東京に帰ったとき、娘に避難するようと言ったけど。彼女は妊娠3か月だった。結局、彼女は一日だけ名古屋へ行ったが、「することがない」と言って帰ってきた。生まれた子どもはよく風邪をひくし、鼻血が出るね。

R: 先日、福島第一が爆発したときに聞こえたという話を聞いて、はっとした。いわれてみれば、音はしたはずです。爆発したときを五感で表現するとしたらどんな表現があるかしら？

M: いろいろな話を聞きますね。においはプラスチックが焦げたようなとか、鉄のような味とか。30～40kmの長泥というところでも、においと白い霧が見えた。

R: 原発関連の写真を最初から撮り続けているけど、一般の人に何を見てほしい？

M: 汚染が続いているのを知らせたい。震災や汚染を忘れさせようとしている人がいるので、彼らに対する答だね。忘れたいと思っている人に対しては、勇気を出して、現実を見よう、と。そして、関心がない人こそ、見てほしい。東京でもどこでも原発事故は起こりうる。普遍的な問題だとか、私の町にも起こりうるとか、そう感じて欲しい。そして、これは黙ってられないと思って欲しい。みんなで声を上げなければならない。新しい写真(放射能の写真)でそういう人の関心を引きたい。

R: 「新しい写真」？

M: 汚染された生活用具の写真。特別の手法を使って、放射能が見えるようにしている。

R: 森住さんのブログに載っている写真ですね。非常にインパクトがあると思います。

みなさんもぜひ見てください。<http://mphoto.sblo.jp/>



森住さんが新しい写真のための準備や採集を行いました

R: 私が写真家にはなれないと思う理由は、相手がどんなにしんどくても、ずっとレンズを向け続けなければならないからです。今回のような原発事故だと、放射能が見えない、五感で捉えないということが写真家として大きな課題でしょうが、写真を通して可視化することは、放射能の中で生活をしている人にレンズを向けることになりますよね。それは、なぜできるのですか。

M: できる・できないのではなくて、しなければならないかな。でも、最初の頃、福島の写真は普通の色で写すことができなくて、みんなブルーにしました。

R: ブルー？

M: そうです。つまり、色のバラナスを変えたわけです。そうしないと撮れないような気がしたね。

R: それはわかるような気がします。このフクシマにいる数日だけでも「日常」と「非日常」の違いがわからなくなってしまいました。「普通」の色で写すのがつらかったのね。

R: 森住さんは昔から核問題・被ばく問題を取りあげています。それはどうしてですか？

M: 偶然かな。八重で開催された 1975 年のビキニ・ディ集会でロンゲラップ島ネルソン・アンジャン氏氏が日本語で「私たちを助けてください」と訴えるのを聞いた。当時、グリーンピースがレインボー・ウォーリア号という船を出して、彼らを乗せて避難させた時期で、そのときは核実験による被ばく者がいるということを知った。ネルソンのことがそれ以来、頭に残っていた。核実験場に行ってみたい、と思っていたが、お金がなかった。そこで 1994 年の原水協の広島・長崎大会でネルソンさんに会ったとき、マーシャル諸島へ行きたいといった。

1995 年がちょうど 50 周年だったけど、写真は過去のことを表現できない。今の問題として写真を通して伝えるしかない。僕の写真が日本のメディア、とくに『フライティ』に載って、それでスクープ。そのおかげで繰り返していくことができ、このテーマで経済的にやっていけると思った。それが大きいですね、食べていけるかどうか。94 年にマーシャルに 3 週間、それから 9 月に旧ソ連が核実験を行ったセミパラチンズクへ。最初の日にあった子の写真がまたスクープ。僕の人生はみんな偶然にラッキー。偶然の出会いからいろいろなことが始まったのだ。

R: フクシマでも良い出会いがたくさんありましたね。私にもたくさんの素敵な人を紹介してくれて、ありがとうございました。

M: ぼくは何回も来ているので、はじめてきたロニーの目線がぼくにとって新鮮だった。ぼくこそ、ありがとう。

R: 最期に、一般論になるかもしれないが、良い写真とはどういう写真？

M: ずっと見続けたい写真だ。撮ってしばらく見ていると飽きてしまうものがある。飽きないでずっと見たいものが良い写真だね。

「良い写真」を写し続けている森住さんの HP をぜひみてください！
<http://www.morizumi-pj.com/>

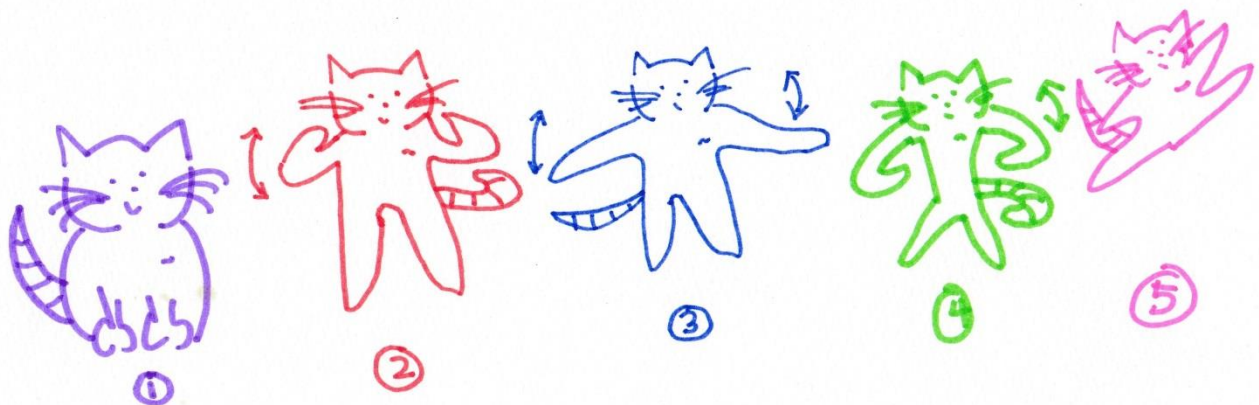


福島第一原発の北側の津波被害を見に行ったとき、私がすべってしまいました。泥まみれになった靴を洗ってくれました。

ポーポキちゃんの簡単ポガ教室

Lesson 73

今月のテーマは、肩甲骨です！



- 1.いつものように、背筋を伸ばし、自分を細く見せながらちゃんと座りましょう。
- 2.立って、手を肩に置いて、ひじをあげましょう。手を置いたまま、ひじをゆっくり上下にうごかしましょう。しっぽを手の動きに合わせてね。
- 3.次は、手を伸ばして、大きく上下に動かします。手のひらを上にしたり、下にしたり、右と左を上と下にしたりして、遊んでみてください！しっぽもね。
- 4.では、今度はまたひじをまげて、手を脇下において、上下に！回してもいいですね。
- 5.できましたね。では、「できたポーズ」をどうぞ！

お疲れ様でした。少しリラックスできましたか？毎日、深呼吸・笑・リラックス、そしてポガを最低3分間練習しましょうね。

一緒にいかが？

次回のポー会 7月14日(月) 神戸YMCA 19:00～ Rm. 306

7.12 ポーポキ at こどもの里 大阪市西成区 10:00～12:00

8.5 ポーポキと一緒に平和を考える 国際理解教育・開発教育研修会 JICA関西

8.6 ポーポキはヒロシマを忘れない！ シャドー&スカイプ 8:00 に生田川公園に集合！

ポーポキの友だちからの知らせ

6.28 14:30-16:00. 映画製作中間報告上映会と古居みずえ監督とトークイベント。福島に生きる「飯館村の母ちゃんたち」 神戸YMCA 1F チャペル。入場料:¥500 問い合わせ先:神戸YMCA 国際奉仕センター 078-241-7204

7.5 16:30-18:30 わかざるカフェ「平和」を語ろう、日本とアメリカ。ポーポキの友だちメロイドにゃんとりゃんがお話します！
場所:神戸YWCA 5F チャペル。参加費 ¥500 (お茶とおいしいお菓子つき)。問い合わせ先:神戸YWCA
Tel:078-231-6201; e-mail: office@kobe-ywca.or.jp; www.kobe-ywca.or.jp

7.7 19:00-20:30 「憲法のこころ Part 2」 場所:神戸YMCA 1F チャペル。参加費:無料。どなたでも OK! 事前に神戸YMCA 国さ・奉仕センターへお申込みください。Tel: 078-241-7204. E-mail: houshi@kobeymca.org

アフガニスタン産レーズンの輸入販売 (CODE)

*ぶどう畑再生支援プロジェクトにより、ぶどうの収穫量はみるみる増加しました。日本の皆さまにもこれをぜひ召し上がっていただきたい、もっとアフガニスタンのことを知っていただきたいという思いから、ミールバチャコットの農家がつくったレーズンを輸入し、熊本市の(特活)日本フェアトレード委員会のご協力で製品化・販売しています。収穫したぶどうを天日干しにした自然のままのやさしい甘みが好評です。経費を除いた収益はアフガニスタン支援に使わせていただきます。ご家庭用はもちろん、ギフトにもぜひお求め下さい。委託販売も受け付けています。 ※詳しくは <http://code-jp.org/afghanistan/index.html>

Popoki in the News

ポーポキ通信のバックナンバー: <http://popoki.cruisejapan.com/archives.html>

- 関西国際交流団体協議会の「デジタルアーカイブ(WEB版の事例集)にポーポキ! <http://www.interpeople.or.jp>
- 『平和を考える絵本出版 被災者支援きっかけに』『神戸新聞』(貝原加奈 2014.4.25 28面)
- 「ボランティア 37 団体に助成 大和証券福祉財団」『神戸新聞』(2013.8.23 朝刊 地域経済 8面)
- 「原爆の熱線で焼き付いたー “人影”再現、非核誓う」『神戸新聞』(2013.8.7 朝刊 22面)
- 「被災 秘めた思い描いて」「ひとと抄」『読売新聞』(2013.2.16 夕刊 4面)
- 広岩近広 『安全』『安心』の社会は足元から、ロニー・アレキサンダーインタビュー 『毎日新聞』 2012.10.29 (「今、平和を語る」、夕刊、1面)
- R. Alexander. “Remembering Hiroshima: Bio-Politics, Popoki and Sensual Expressions of War.” *International Feminist Journal of Politics*. Vol.14:2:202-222, June 2012
- 「ポーポキと一緒に作り出す平和の根底に 9 条がある」NO : 66 2012 年 5 月 12 日[子どもと守る9条の会]
- 「布に希望 60 メートル」阿久沢悦子 『朝日新聞』 2012.1.21 (兵庫・29面)
- 「平和祈る声まとめ本に」斎藤雅志 『神戸新聞』 2012.1.19 (伝える 1・17 3・11、22面)
- K. Wada. “Conversations with Ronni Alexander: The Popoki Peace Project; Popoki, What Color is Peae? Popoki, What Color is Friendship?” *International Feminist Journal of Politics* Vol.13, No.2, 2011, 257-263
- S. McLaren. “The Art of Healing”(Popoki Friendship Story Project) *Kansai Scene*. Issue 133, June 2011, p.10. kansaiscene.com
- R. Alexander. (2010) “The Popoki Peace Project: Creating New Spaces for Peace in Demenchonok, E., ed. *Philosophy after Hiroshima*. Cambridge Scholars Publishing, pp.399-418
- 「省窓」『神戸青年』 No.606 2011.1.2 p.1
- No.1 「『ポーポキ、平和って、なに色?』の背後にあるもの」(連載) とさぼりライフ第 19 号 2010.10:4
- 堀越健志「シリーズ:こくさいのまで⑮(パレスチナについて)『神戸青年』 No.604 2010.9-10
- 「みんなでやれば、何にかが変わる!」 THE YMCA No.607 June 2010, p.1
- [ヒロシマと世界: 被爆地の声 非核と平和、復興と再生、許しと命の尊厳訴え] http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602_ja
- 2010.3.15 中国新聞 ヒロシマ平和メディアセンター
- FM COCOLO 76.5 ‘Heart Lines’ 2010.1.9 Interview: Ronni on Popoki in Palestine
- “Human Rights, Popoki and Bare Life.” *In Factis Pax Journal of Peace Education and Social Justice* Vol.3, No.1, 2009, pp.46-63 (<http://www.infactispax.org/journal/>)
- 西出郁代 「ポーポキ、平和って、なに色? ロニー・アレキサンダーを迎えて」『PPSEAWA』(日本汎太平洋東南アジア婦人協会) No.63 2009.12, p.5.
- 「友情」第 2 号 2009.11 伊丹市国際・平和交流協会 年間事業報告 pp.1-2
- 「ともに・・・」 No.29 2010.1 家庭と保育所、学校園、地域を結ぶ在日外国人教育情報誌 ポーポキ・ピース・チャンレジ情報 p.12
- 区民情報誌「なだ」 2009.12, p.2. ポーポキ・ピース・チャレンジ情報。
- 「『ポーポキ、友情って、なに色?』」「私のいち押し」奥田光子 THE GAIDAI 2009.7.17 No.243 (関西外大通信)
- 「友情って・・・考える絵本」朝日新聞「生活」(阿久沢悦子) 2009.7.2
- 「友情を考えて人間と、ねこと、そして自分と～」れ組通信 RST/ALN 2009.6.28 No. 259, p.11
- 「カティング・エッジ」第 35 号 2009.6 (北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」)「新刊紹介:『ポーポキ、友情って、なに色? ポーポキのピース・ブック 2』(レベッカ・ジェニスン) p.3
- 「猫を通して平和を考える 絵本の第 2 弾を出版」(斎藤雅志) 神戸新聞 2009.4.21
- 「ポーポキ、平和ってなに色?」 KOBE YMCA NEWS 「神戸青年」 2009.3.1 No.593 p.2
- 「ポーポキ、ゴミってなに色?」 KOBE YMCA NEWS 「神戸青年」 2009.1.1 No. 592 p.2
- 「友だちになってくれませんか?」 RST/ALN 2009.2.22
- ラジオ番組の中のポーポキ!!! プロジェクト・メンバーの宇留賀佳代子さんがラジオ番組で紹介してくださいました。ぜひお聞きくださいね。 <http://www.kizzna.fm/> 録音番組をクリック。番組 CH の 6CH をクリック。
- やさしいから人なんです展パート20 実行委員会『世界人権宣言』ひょうご部落解放・人権研究所 2008. 1 O 500 円。詳しくは: blrhyg@osk3.3web.ne.jp
- 「KFAW カレッジ ロニー・アレキサンダー氏 講演会」エイジアン・ブリーズ/Asian Breeze No.54 October 2008, p.8 (アジア女性交流・研究フォーラム)
- 「ピースセミナー in 熊本 あなたにとっての「平和」とは?」 Kumamoto YMCA News 10 Vol.437 October 2008, p.1
- 神戸新聞「人権宣言 兵庫から発信 全 30 条 イラストで表現 地元ゆかり 6 名がパネル制作」 2008.10.8. 10 面





私にとってのポーポキ

ポーポキには、いろいろな友だちがいます。ポーポキ通信に書いてくださる友だちも、遠く離れて見守ってくださる友だちも。

2006 年、ポーポキ・ピース・プロジェクトができて間もない頃、鶴見和子先生がろにゃんに向かって、「これをつらぬきなさい！」と激励しました。みんなのおかげでここまで来ました。

そのとき、ご一緒だった方はそれ以来、ポーポキのサポーターになりました。新年のご挨拶は以下の通りでした。

「今年は天災、人災と世界中に胸の痛むことが多くございました。その中でのポーポキちゃんのご活躍に敬意を表し、新年はすべてに平穏が訪れて、ポーポキちゃんが一層のご活躍になりますようにお祈りします。」

また、現在たいへんな日々を過ごしている被災地の方が、『ポーポキ、元気って、なに色？ポーポキのピース・ブック 3』に対して、次のようにコメントしました。

「絵本、とっても楽しい、ねこちゃんの冒険。ワクワクしました。(ポーポキ、ステキ)。」

あるいは、「本を手にとり見させて？読ませて？頂きました。どのような内容なのか想像しませんでした…かなり奥が深いな～と感じました。No3、1 と見たんですがティッシュが無いと大変です。」

ポーポキは、いろいろなところにいる、いろいろな特徴をもつ多様な人のところにいるのです。もちろん、ろにゃんのところもポー会メンバーのみなにゃんのところにも。そして、あなたのところにも。



さらにご協力ください！



ポーポキ・ピース・プロジェクトは、『ポーポキ、平和って、なに色？ポーポキのピース・ブック1』（エピック、2007年）、『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック2』（エピック、2009年）、『ポーポキ、元気って、なに色？ポーポキのピース・ブック 3』を題材に、全身で平和の意味を探り、一人ひとりの「発見」を平和の創造に役立てようとする小さな平和活動団体です。また、2011 年に起こった東日本大震災をきっかけに活動しており、『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』という本を 2012 年 1 月に発行しました。2006年に設立されて以来、日本国内外で幅広く平和のためのワークショップなどの開催を続けてきました。活動の資金はすべて本の売上や寄付によって行っています。

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10カ国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動が続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なさいたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「一緒にどうぞ」の欄をご参照されたい。）

また、こういった活動に対してのご協力、ご支援をぜひお願いしたいと存じます。本の購入・寄付・本についてのコメント、感想、注文などについては、popokipeace@gmail.com へお問い合わせください。

なお、本についての問い合わせや注文は、お近くの書店、アマゾン、あるいはエピック（TEL: 078-241-7561・FAX: 078-241-1918）へどうぞ。

ポーポキ・ピース・プロジェクト [popokipeace\(at\)gmail.com](mailto:popokipeace(at)gmail.com)

<http://popoki.cruisejapan.com>



郵便振替口座番号 00920-4-280350

ゆうちょ銀行 店番099 店名099店 当座 口座番号0280350

口座名 ポーポキ・ピース・プロジェクト神戸

ポーポキ平和募金は一円 1500 円 何円でも結構です。



THANK YOU FROM POPOKI!!